教育実践学研究第５号　２００１．３

自分が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法を身に付ける国語科学習の指導の在り方
――小学校第６学年「調べた事をもとにスピーチをしよう」における発表メモの工夫，活用を通して――

日立市立坂本小学校　教諭　大内　典子

An Ideal Method of Teaching Japanese :
How to Develop the Pupils' Proper Speaking Skill in What They Think And Want to Say.
----By the Effective Use of Notes for a Speech in the Sixth -grade Class on the Subject of "Make a Speech on Your Own Findings."

国語科の学習において，児童が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法を身に付けることができるようにするためには，聞き手に自分の考えや意図が分かるように，中心となる考えやその根拠をはっきりさせたり，話の組立てを工夫させたりする指導が必要である。本研究では，調べた事をもとにスピーチをする学習において，発表メモの工夫，活用を通し，的確に話す方法を身に付ける国語科学習の指導の在り方を究明した。

ｷｰﾜｰﾄﾞ：　小学校(Elementary school)，国語(Japanese)，スピーチ(Speech)，発表メモ(Notes for a Speech)，的確に話す(Proper)

１　主題設定の理由

平成10年12月に告示された小学校学習指導要領国語科の第５学年及び第６学年の目標には,「目的や意図に応じ，考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに，計画的に話し合おうとする態度を育てる。」とあり，互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う能力の育成が重要であるとされている。特に「２内容　Ａ話すこと・聞くこと」には,「考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら，目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」とあることから，自分が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法を身に付けていくことが必要であると考えられる。

「話すこと」についての意識調査（平成12年10月26日実施，第６学年３組30人）では「自分の考えを発表すること」に苦手意識をもっている児童が20人いたが，そのほとんどの児童は「発表が上手になりたい」という意識をもっていた。苦手である主な理由は「何を話していいのか分からない」,「発表の仕方が分からないので自信がない」であった。このことから，これまでは，何をどのように話せばよいのか，自分の考えた事や伝えたい事をはっきりさせ，話の組立てを工夫させる指導が不足していたと考えられる。そこで，話の中心となる考えやその根拠をはっきりさせ，聞き手に分かるように話の内容を組立てる方法が分かれば，児童は自分が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法を身に付けることができるであろうと考えた。

自分が考えた事や伝えたい事を的確に話すためには，何を，だれに，どのように話すのか，発表メモを用いて話の中心となる考えを明確にし，聞き手に分かるように組立てを工夫することが必要であると考えた。発表メモは，調べて分かった事を絞っていき，自分の考えの中心とその根拠をはっきりさせるイラストメモ，市毛勝雄氏の提唱する「起承束結」で話を組み立てる組立てメモが有効であると考えた。

そこで，本研究では，イラストメモと組立てメモの二つの発表メモを活用し，調べた事をもとに考えた事や伝えたい事についてスピーチをする学習単元を設定した。発表メモを作る際，イラストメモでは話の中心とその根拠を明確にさせたい。また組立てメモでは話の目的や意図が聞き手に分かるように，話の中心や順序に気を付けながら話の組立てを工夫させたい。このように発表メモを工夫，活用したスピーチをすることにより，自分が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法が身に付くであろうと考え，本主題を設定した。

2　研究のねらい

小学校第６学年「調べた事をもとにスピーチをしよう」において，発表メモの工夫，活用を通して，自分が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法を身に付ける国語科学習の指導の在り方を究明する。

3　研究の仮説

小学校第６学年「調べた事をもとにスピーチをしよう」において，聞き手に自分の考えや意図が分かるように，考えの中心やその根拠を明らかにし，話の組立てを工夫した発表メモを活用すれば，自分が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法を身に付けることができるであろう。

4　研究の内容

(1) 基本的な考え方

①　「話すこと」に関して

「話すこと」は，自分が考えた事や伝えたい事を聞き手に分かるように，自分の言葉で表現することである。「話すこと」ということについて，押上武文氏[1]は，「『的確に話す能力』を身に付けること　―――話し手の意図することを的確に聞き手に伝授することが重要であり，話し手の思いや考えなどが的確に聞き手に伝わるように話す能力を身に付けること」を指導のねらいとしている。また，自分の考えを的確に表現する力は，これからの社会において重要な能力になると考えられる。そこで本研究では，「的確に話すこと」を，「話すこと」の指導目標の中心としてとらえた。

②　「的確に話す」とは

小学校学習指導要領解説国語編（平成11年５月文部省）では，「国語による表現力と理解力を育成することが，国語科の最も基本的な目標であり国語の能力の根幹となる」と述べられ，自分の考えを自分の言葉で積極的に表現する能力や態度を重視し，表現する能力の育成を最初に位置付けた。また第５学年及び第６学年「Ａ話すこと・聞くこと」の目標では，「目的や意図に応じ，考えた事や伝えたい事などを的確に話す」能力の育成が位置

付けられている。さらに考えた事や伝えたい事を的確に話すことの具現化では，「Ａ話すこと・聞くこと」の「②内容」の中に，「考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら，目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」が指導事項として挙げられている。また，「③言語活動　３内容」の取扱いでは「自分の考えを資料を提示しながらスピーチをすること」が例示されている。「的確に話すこと」の指導においては，何を，だれに，どのように話したいのか，ということをはっきりさせることにより，相手に対して，自分の考えや意図をより明確に伝えることができると考える。何を話すのかについては，自分の考えの中心やその根拠を明らかにする手立てが必要である。また，どのように話すのかについては，話し手が伝えようとする内容を，聞き手に分かるようにどんな順序で話を組み立てるか，その方法に対する手立てが必要である。

③　スピーチについて

大森修氏は，「スピーチには，主義・主張や意見がなければならない」ことを指摘している。また，高橋俊三氏は，「話し手と聞き手の間の双方向性を意識させることがスピーチの指導においては重要である[2)]」と述べている。これらのことから，スピーチでは，聞き手に対して自分が考えた事や伝えたい事の意図がはっきり伝わるようにすることが大切であると考える。そのためには，中心となる考えとその根拠を明確にする，話の中心や順序に気を付けて聞き手に分かりやすく話を組立てるなど的確に話す方法を身に付けさせることが必要である。これらの考えをもとに目指す児童の姿を表１のようにとらえ，的確に話す方法が身に付いていく過程を図１のようにまとめた。

表１　本研究における的確に話す方法が身に付いた児童の姿

- ○　イラストメモを工夫することを通して，中心となる考えがもて，その考えの根拠を明確にすることができる。
- ○　組立てメモを工夫することを通して，話の中心や順序に気を付けて話の内容を組み立てることができる。
- ○　イラストメモや組立てメモを活用しスピーチをすることを通して，聞き手に自分の考えや意図が分かるように話すことができる。

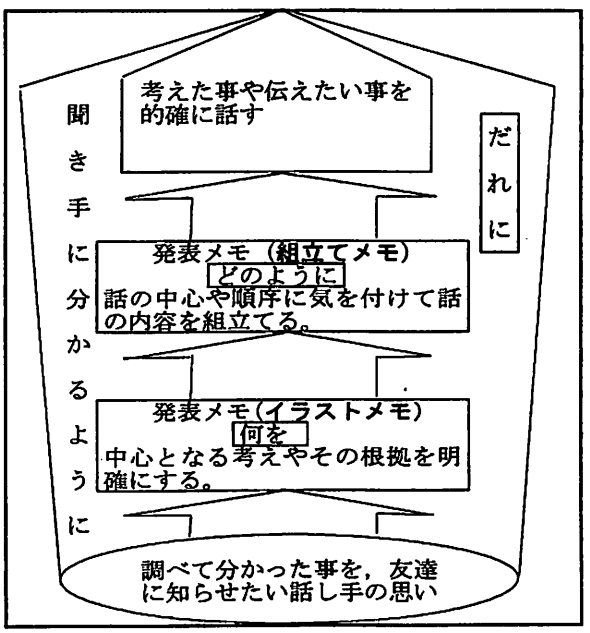


図１　的確に話す方法が身に付いていく過程

(2) 主題に迫るために

① 話すことに関する意識・実態調査

表２は10月に行った話すことに関する意識・実態調査の結果である。アの話すことに関する意識調査で，「自分の考えを発表することは苦手」と答えている主な理由は，「発表の仕方が分からない」，「何を言えばいいのか分からないので話すことに自信がない」であった。また，「どんなことを教えてほしいか」という設問に対しては，22人が「どのように話したらいいのか」と話す方法について挙げていた。この結果から話す内容，方法が分かれば，話すことに自信がもてるのではないかと考えた。

表２　話すことに関する意識・実態調査

ア　自分の考えを発表することが得意ですか。
- ○　得意　1人
- ○　どちらかというと得意　9人
- ○　どちらかというと苦手　5人
- ○　苦手　15人

発表することが嫌いな理由は何ですか。
- ○　発表の仕方が分からないから。15人
- ○　何を言えばいいのか分からないので自信がない。　5人

どんなことを教えてほしいか。
- ○　どのように話したらいいのか。22人
- ○　聞き手に分かりやすい話し方。4人
- ○　その他　4人

イ　調べた事から自分の考えが話せたか。
- ○　話せた　3人
- ○　話せない。　27人

（H12. 10. 26実施日立市立坂本小学校第６学年３組30人）

イの実態調査から自分の考えを明確にして話ができる児童が少ないことが分かった。そこで，児童が自分の考えた事や伝えたい事を的確に話すためには，話の中心となる考えを明確にする方法と，聞き手に分かりやすく話を組立てる方法を指導する必要があると考えた。

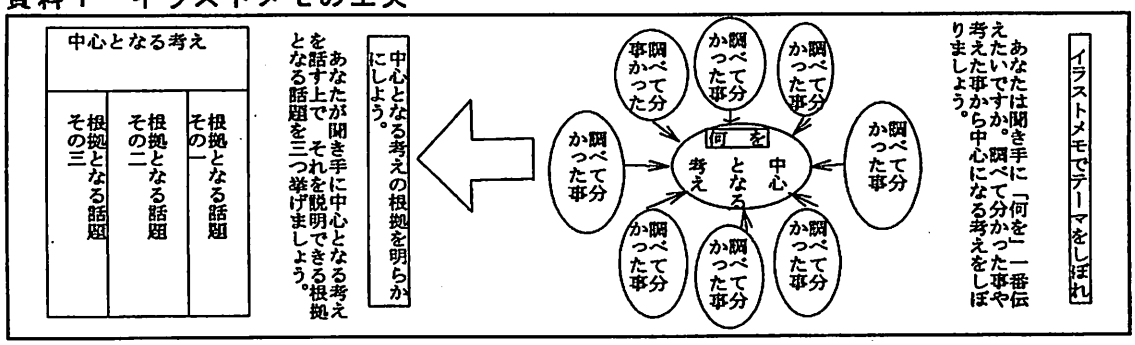
② 自分が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法

的確に話すことにおける「何を」は，中心となる考えとその根拠を明らかにすることである。そのための手立てとしてイラストメモを取り入れる。また，的確に話すことにおける「どのように」は，話の中心や順序に気を付けて組立てを工夫することである。そのための方法として組立てメモを取り入れる。それらの発表メモを活用してスピーチをすれば，児童は何をどのように話せばよいのか，その方法が分かるであろうと考えた。なお，この学習は教室という場でクラスの友だちにスピーチをするという設定で行う。

ア　イラストメモについて

イラストメモ[3]は，イラストにより調べて分かった事を絞っていき中心となる考えとその根拠になる話題を明確にするためのものである。さらにそれを一覧表にすることで，何を話したいかが分かるであろうと考えた。

資料１　イラストメモの工夫



イ　組立てメモについて

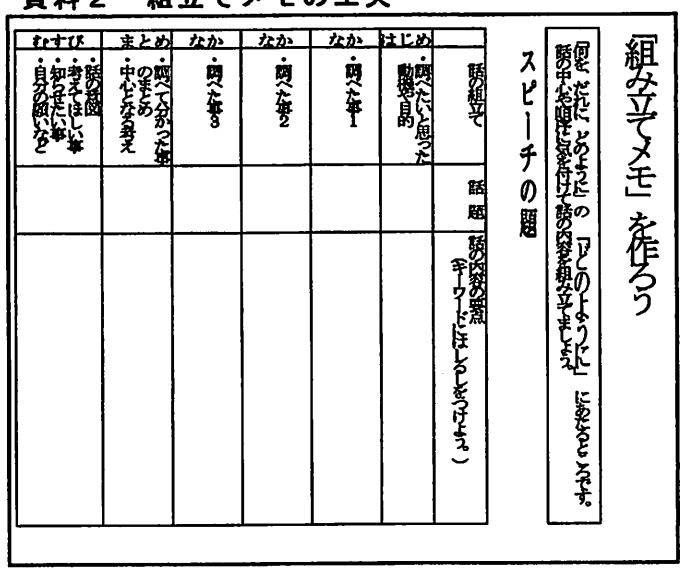
今回の研究では，中心となる考えとその根拠をはっきりさせて話すために，話の組立てを，市毛勝雄氏[4]の提唱する「はじめ，なか，まとめ，むすび」という「起承束結」の四つのまとまりで工夫させる。

資料２に示した組立てメモでは,「はじめ」に自分が調べたいと思った動機や目的を,「なか」に中心となる考えの根拠となる話題を,「まとめ」に中心となる考えを入れる。最後の「むすび」に話の意図である考えて欲しい事や知らせたい事等を入れる。以上のような組立てにすることにより，話の中心や順序が聞き手に分かりやすいように工夫できると考えた。また，組立てメモを活用してスピーチの練習をさせ，グループで話し合ったり視聴覚機器を活用[5]して自分の話の仕方を振り返ったりして，さらに聞き手に分かるように工夫させたい。

③　検証の方法

学習後に，児童が記入したイラストメモや組立てメモの記述から，中心となる考えやその根拠があるか，中心や順序に気を付けて話を組み立てているか，聞き手に分かりやすい内容になっているかを判断し，学習前と比較していく。

資料２　組立てメモの工夫



(3)　授業の実践

①　単元名　調べた事をもとにスピーチをしよう

②　目標　　（略）

③　単元の計画

時	学習活動	学習のねらいと教師の働きかけ
1	・　めあてをもち，計画を立てる。	・　友だちに話したい意欲を高める。
2 3 4	・　イラストメモを工夫する	・　イラストメモを工夫することを通して，中心となる考えとその根拠を明確にさせる。
5 6 7 8 9 (本時)	・　組立てメモを工夫する。 ・　組立てメモを活用したスピーチの練習を通してさらに工夫する。	・　組立てメモを工夫させることを通して，自分の考えや意図が聞き手に分かるように，話の中心や順序に気を付けて話を組み立てさせる。 ・　聞き手を意識した話し方を工夫させる。
10 11	・　組立てメモを活用してスピーチをする。	・　組立てメモを活用し，聞き手に分かるようにスピーチをさせる。

④　本時の指導

(ｱ) 目標

○　話の中心が聞き手によく伝わるように，話の組立てを工夫した発表メモを作ることができる。

(ｲ) 準備

発表メモ，聞き取りメモ，振り返りカード，ビデオ，カセットテープレコーダー

(ｳ) 展開

学習活動・内容	教師の支援と評価　※は評価
1　本時の活動のめあてを確認する。 発表メモをもとにスピーチの練習をし，話の中心が聞き手によく伝わるように話の組立てを工夫しよう。	・　前時までに工夫した発表メモを活用し，スピーチの練習をすることや，聞き手に自分の伝えたい事がよく分かるように，発表メモを改善していく学習であることを知らせ，スピーチへの意欲を高める。 ・　発表メモには，イラストメモと組立てメモがあり，それぞれをどのように活用するのかについて確認てしおく。 ・　事前にそれぞれの発表メモの内容を把握しておき，一人一人に対する支援の手立てを用意しておく。
2　発表メモを活用し，グループごとにスピーチの練習をする。 (1) スピーチの練習をする。 ・　話の中心や組立てを工夫して話す。 ・　聞き手を意識して話す。 (2) お互いのスピーチについて話し合う。 ・　聞き取りカードを活用して聞く。	・　グループ内で，発表メモを活用しスピーチの練習をする。 ・互いのよいところを認めたり，もっと分りやすいスピーチになるように意見を出し合い，友だちの意見を参考にし，更によい発表メモになるように励ます。 ・グループの人数は四人程度とし，司会者を中心に意見を述べさせ，話し合いを円滑に進めさせる。 ・　スピーチをする際は，発表メモに書いてある文の棒読みにならないように，聞き手を意識して話をさせる。 ・　聞き手になる児童には，次のような聞く観点をもたせたい。 ① 話題の中心がはっきりし，考えのわけが分かったか。 ② 話の組立てがしっかりし，分かりやすいか。 ・　机間指導をする中で，話の組立てや相手意識の足りない児童には，工夫の視点を与える。 ※　上記①②の観点でスピーチを聞き，話し合うことができる。 ・　友だちの意見や教師の助言を生かし，自分の発表メモをさらに工夫する際,「何を，だれに，どのように」伝えるのか，次のことに配慮させる。
3　2の話し合いをもとに，発表メモを改善する。 (1) 自分の発表メモをどのように改善すればよいか，視点をはっきりもつ。 (2) 友だちの意見をもとに，発表メモを工夫する。 (3) 改善した発表メモをもとに，スピーチの練習する。 ・　友だちに聞いてもらう。 ・　テープに録音して練習する。 ・　ビデオに撮って練習する。	※　聞き手に伝えたい事が分かるように話の組立てをさに工夫することができる。 ① 何を伝えたいかがはっきりしているか。 ② 自分の考えのわけが明らかになっているか。 ③ 事実，感想，意見の組立てが工夫されているか。 ④ 聞き手に分かりやすいか。 ・　話す速さ，間の取り方，声の大きさ，抑揚などについて児童から意見が出た時には，発表メモに書き込ませ，聞き手に分かりやすく話そうとする意欲を高めさせる。 ・　テープやビデオを使い，自分のスピーチを聞くことを通して，客観的に自分の話の仕方を振り返らせ工夫させる。 ※　話の中心や組立てを工夫した発表メモをもとに，自分が伝えたい内容が聞き手に分かるように話すことができる。
4　本時の学習の取組みについて，自分なりに振り返る。	※「振り返りカード」を使いながら，本時の学習の取組みについて，自分なりに反省することができる。 ・　発表メモを活用すれば，話をするとき，何を，だれに，どのように話せばよいのかが分かり，有効であることに気付かせていきたい。
5　次時の学習について知る。	・　活動のよい点を認め励ますことで，次時への学習意欲を高めていきたい。

⑤　授業の記録

抽出した児童
Ａ子：国語科への関心が高い。作文を書く学習に進んで取り組む。
Ｂ子：自分の意見を率直に述べることができる。社会的な事象に興味がある。
Ｃ男：作文を書いたり，みんなの前で話をすることが苦手である。

学習の流れ	全体の様子	抽出した児童		
		Ａ　子	Ｂ　子	Ｃ　男
本時の学習のめあてを確認する（一斉）	・本時の活動のめあてを，学習ガイダンスにより確認する。 ・本時の学習のねらいが，発表メモを活用しスピーチの練習をして話の中心が聞き手によく伝わるように話の組立てを工夫するというめあてについて話し合う。	・教師の方へ目をやり最後までよく話を聞いていた。質問に対して挙手をする。 ・グループの友だちが学習の準備ができたかどうか確認した。	・教師の『何を』に当たることを何というか，という質問に対し，「主題」と答える。 ・資料を確認して準備に取りかかる。	・本時の学習内容は確認できたが，だいぶそわそわしている。挙手はできない。 ・資料を確認して準備に取りかかる。
発表メモをもとに，グループごとにスピーチの練習をする。（グループ）	・発表メモを活用し，グループごとにスピーチの練習をするときの約束を聞く。 ・グループごとに，司会者を中心にしてスピーチの順番を決め，スピーチに取りかかる。 ・スピーチの練習をする。 ・友だちのスピーチを聞き，聞き取りカードを書く。 ・互いのスピーチについて話し合う。 ・教師がグループを回り，スピーチの聞き方の観点が分かっているかどうか確認した。分かっていない児童には，聞き取りカードを見ながら児童と一緒にスピーチを聞き，観点を確認させた。	・グループの司会者として，スピーチをする順番を決め，スピーチの練習を始める。 ・自信をもって発表をしていた。 ・間の取り方も工夫してスピーチをしていた。 「心のゆとりって何」という友だちの質問に，自分なりの考えを答えていた。 ・進んで友だちのスピーチを聞き，友だちのスピーチのよさを認める発表ができた。 ・友だちのスピーチについての改善点は挙げることができなかった。	・発表メモを見ながら笑顔ではあるが，少々あがった様子で緊張してスピーチをしていた。早口になりがちであった。 ・友だちのスピーチをうなづきながら熱心に聞き，スピーチの内容に対して，素直に驚いたり，共感したりする様子が見られた。 ・友だちのスピーチについて，よさを発表できた。 ・友達のスピーチについて，改善点をアドバイスしたが，相手によく分かってもらえず残念そうだった。	・友だちと協力してスピーチの準備にとりかかった。テープレコーダーを操作する役割を受け持った。 ・原稿メモをほとんど読み上げるような調子でスピーチを行った。声が小さく，恥ずかしそうにぼそぼそとスピーチをしていた。 ・友だちのスピーチについてのアドバイスはできなかった。 ・友だちが自分のスピーチに対して書いてくれた聞き取りカードを読んでいたが，ただ読んでいるだけだった。
発表メモを改善する。（個人）	・グループでの話し合いを生かして，自分の発表メモをさらに工夫することを聞く。 ・発表メモを工夫するときの観点を確認する。 ・発表メモにさらに書き込んだり，付け加えたりしようと考えている児童は家庭科室に移動して活動を始める。 ・スピーチの練習をしたい児童は，視聴覚室に残り，テープレコーダーを使って順番に練習を始める。ビデオを撮って練習したい人は，映写室に入り練習を始める。	・内容的には，かなり完成に近づいている発表メモなので，視聴覚室に残り，簡単な手直し程度の工夫をする。 ・自分のスピーチのテープをもう一度聴き直す。 手直しをした発表メモをもとに自分のスピーチをテープに録音し，再生して聴く。 ・さらに聞き手に分かりやすいように，難しい言葉などをやさしく言い替えて発表メモを工夫する。 ・テープに録音する。	・自分のスピーチに対して友だちが書いてくれた聞き取りカードを読み返し，自分の発表メモのどこを改善したらよいか確認する。 ・家庭科室に移動し，発表メモの手直しに入ったが，すぐ終り視聴覚室に戻ってくる。 視聴覚機器は使わずに，何度も自分の発表メモを読み，スピーチが改善されているか確かめる。 ・グループの友だちに発表を聞いてもらう。	・発表メモのどこを改善すればよいか分からず，とりあえず家庭科室に移動する。 ・教師から「伝えたいことの理由の中に，戦争のことがたくさん入っているので，当時の様子がもっとよくみんなに分かるように説明を加えてみたら……」という助言をもとに，参考資料を見ながら発表メモに書き込みを始めた。 ・スピーチを練習する時間は取れなかった。
本時の学習の取り組みについて自分なりに振り返る。（個人）	・振り返りカードに，自分の学習の取組みについて分かったこと，感じたことを記入する。	・自分のスピーチについて足りないところがきちんと分かって振り返りカードに記入していた。	・話し合いで，友だちにうまくアドバイスできなかったことを反省として記入していた。	・授業が楽しかったと記入していた。
次時の学習のめあてを知る。（一斉）	・次時は，15人ぐらいの友達が聞き手になって，スピーチをする学習に取り組むことを知り，喚声が上がると同時に，戸惑いと期待の表情が浮かぶ。	・次時の学習が分かり，楽しみにしている様子が感じられる。	・次時の学習が分かり，多少心配そうな表情をするが，すぐにこにことする。 ・新しい発表メモの用紙を取りに行く。	・次時は，たくさんの友達の前でスピーチをすることを知り，隣の友だちと顔を見合わせ，複雑な表情でうなづき合う。

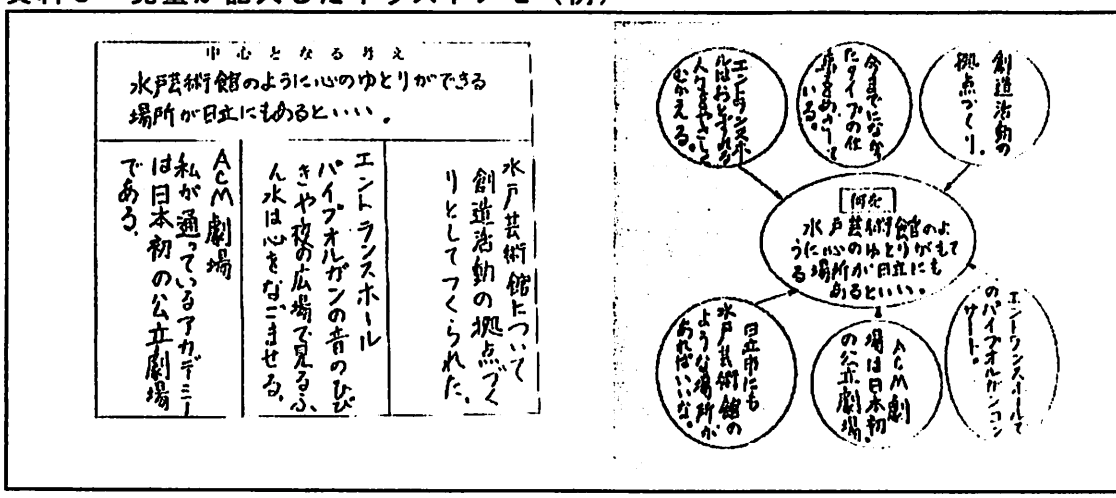
(4) 授業の分析と考察

① 的確に話す方法を身に付けるための手立てについて

ア イラストメモの工夫について

資料３は，抽出児童Ａ子がイラストメモを工夫して，中心となる考えやその根拠を明確にするために示した例である。まず，水戸芸術館について調べた事や考えた事を整理し，それをもとにイラストメモを作り，「水戸芸術館は心のゆとりができる場所である」という話の中心になる考えを絞っていった。次に，その根拠となる話題を一覧表で明確にしていった。

資料３　児童が記入したイラストメモ（例）



また，表３に見られるように，30人中27人がイラストメモにより中心になる考えとその根拠を見つけることができたことから，イラストメモを工夫すれば，中心となる考えやその根拠が明確にできることが分かった。

表３　イラストメモや組立てメモの工夫，活用における児童の変容

（H12. 10. 28～11. 8　日立市立坂本小学校６年３組30人）

観点 ／ 月日	中心となる考がもてた	中心となる考えに根拠がある	順序に気を付けて話を組み立てる	聞き手に分かりやすい内容になっている
10/28 単元学習前	３人	０人	０人	０人
11/2イラストメモ学習	27人	21人	13人	13人
11/8組立てメモ学習後	28人	25人	25人	21人

イ 組立てメモの工夫について

資料４は，日立市のマークについて調べた児童が，「まとめ」に「マークは，一つ一つ人々の思いや願いや希望が込められている。」という中心となる考えを述べ「なか」に根拠となる話題を三つ挙げて，話の組立てを工夫した例である。このように，中心や順序に気を付け，聞き手を意識して組立てメモを工夫した結果，表３に見らるように30人中25人が話の中心と順序に気を付けて話の組立てを工夫することができた。また，聞き手を意識して自分の伝えたい事を分かりやすく話そうとしていた児童は30人中28人であった。以上のことから，組立てメモにより話の中心や順序に気を付け

ながら，聞き手に分かるように「起承転結」の四つのまとまりで話を組立てていく方法が有効であることが分かった。また，組立てメモを活用してスピーチをし，話し合ったり，視聴覚機器を使ったりすることで，自己の話し方を振り返り，組立てメモを改善することができ，相手意識が高まったと考えられる。

資料４　児童による組立てメモ

なお，イラストメモや組立てメモを用いても，何を中心にして話したらよいか，またどのように話を組み立てればよいか分からなかった児童が二人いた。この児童について，その原因を考えると，どちらの児童も調べたいと思うテーマがなかなか見つけられず，調べた事に対する興味関心や自分とのかかわりを考えることが少なかったことが挙げられる。しかし，この児童たちも，学習について振り返るアンケートには，これからも発表メモを使ってみたいと書いているので，発表メモを工夫，活用することのよさには気付いていると考えられる。

ウ　イラストメモや組立てメモを活用したスピーチをする学習について

イラストメモや組立てメモなどを工夫し，スピーチに活用する学習を行ったところ，表３に示す通り，聞き手に分かりやすく話そうとしていた児童は，30人中21人であり，聞き手を意識して話をするようになったきたことが分かった。

表４　話すことに関する意識の変容
（H12.11.８　坂本小学校６年３組30人）

設　　問	前・後	すごく思う	すこし思う	あまり思わない	全く思わない
ア発表することは楽しいと思いますか。	実施前	３人	７人	13人	７人
	実施後	12人	13人	３人	２人
イ発表することに自信があると思いますか。	実施前	１人	２人	17人	10人
	実施後	９人	17人	１人	３人
ウこれからも発表メモを活用しようと思いますか。	実施前				
	実施後	15人	12人	１人	２人

単元に入る前に，自分の調べた事をもとにスピーチを行った際，ほとんどの児童は調べた事に対する自分の考えがもてず，「何を話せばいいのか，どのように話せばいいのか分からないので話すことに自信がない。」と答えていた。

しかし，表４に示すとおり30人中27人が，この学習で，「自分の考えを発表することに自信がもてた」と答えており，30人中25人が「スピーチをする学習が楽しい」と答えている。また「スピーチをする時これからも発表メモを活用してみようと思うか」という設問に対し30人中27人が「活用しようと思う」と答えている。これは，児童にとってイラストメモや組立てメモを工夫することが，実態に合っていたからと考えられる。また，何を，だれに，どのように話すの

か，児童はその方法が分かったことにより，話すことに自信がもてたと考えられる。そして，話すことに自信がもてたので話すことが楽しいと感じられるようになったと考えられる。このことから，内容や話を組み立てる方法という技術面だけでなく,「話すことが楽しい」という情意面も一緒に育ってきていることが分かる。児童が話すことを楽しいと思うことは，これからも積極的に発表メモを活用して的確に話そうとする態度を育てる上でも，大切にしていきたいと考える。

5　研究のまとめ

発表メモを工夫，活用することを取り入れたスピーチをする学習を通して，自分が考えた事や伝えたい事などを的確に話す方法を身に付ける国語科学習の指導の在り方について究明した結果，次のことが明らかになった。

(1) 小学校第６学年「調べた事をもとにスピーチをしよう」の学習において，イラストメモを工夫してスピーチに活用することは，話の中心となる考えや根拠を明確にするという点で有効である。

(2) 小学校第６学年「調べた事をもとにスピーチしよう」の学習において，組立てメモを工夫してスピーチに活用することは，話の中心や順序に気を付けて話を組み立てることができるという点で有効である。

(3) スピーチをする学習において，発表メモを活用してスピーチをし，話し合うことは，イラストメモや組立てメモをさらに充実させ，的確に話す方法を身に付けることに対して有効である。

6　今後の課題

(1) 自分が考えた事や伝えたい事を的確に話す方法として，発表メモを作る過程で書く活動を多く取り入れたが，次第に書く活動を減らし，さらに簡単な話の柱立て程度の発表メモでスピーチができるような指導の在り方について究明していきたい。

(2) この研究では，考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てをすることに焦点を当てて取り組んできたが，それに加え今後は，目的や場に応じたより効果的な話し方の指導についても究明していきたい。

(3) 聞く能力との双方向性をとらえながら，子どもが成長過程において，どのように話す能力を獲得していくのかを究明し，国語科学習の指導に生かしていきたい。

＜主な引用文献＞

(1) 高橋俊三　音声言語の授業第１巻話すことの指導　明治図書

(2) 高橋俊三編　音声言語指導大辞典　明治図書

(3) 杉澤陽太朗　人前で話す基本　祥伝社

(4) 市毛勝雄　言語技術としての国語科　明治図書

(5) 村松賢一ほか　国語教育98　明治図書